非核・いしかわ

2018 年 4 月 20 日　月刊第 237 号　発行／非核の政府を求める石川の会

事務局／石川民医連労働組合気付
〒920-0848 金沢市京町 28-8　TEL076-251-0014　Fax 076-251-3930
ゆうちょ口座 00760-0-15689　年会費 3000 円（全国紙代含む）

非核五項目
① 全人類共通の課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する
③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

1 面　全国コッカイオンドク！コンテスト in 金沢　市井早苗
2 面　非核石川の会第 30 回総会　開催案内
憲法の創造力　木村草太
3 面　「標的の島 風かたか」舞台挨拶　三上智恵
4 面　性教育石川セミナーへのお誘い　末友雅子
5 面　市民メディア発動で 9 条改憲阻止　永山孝一
サポート会員制を発足しました
6 面　知は力なり　西村　昭
核兵器廃絶　終わりの始まり　西本多美子
7 面　〈独標〉秋の憂い　土井和子
平和事業に関する自治体アンケート
8 面　石川の地域点描 シリーズ　中西　優
絵手紙コーナー　広瀬勝子
非核・平和の掲示板

全国コッカイオンドク！コンテスト in 金沢
音読で伝わる言葉の力

市井早苗

三月二一日、金沢の一等地にある香林坊アトリオで、GUCCIやCOACHに見守られながら全国コッカイオンドクコンテストが開催された。

コッカイオンドクは、金沢市の主婦・小原美由紀さんが「報道などで一部しか流れない国会で何が起こっているのか？」と実際に国会中継や録画を見ながら議員さんのため息やふと漏らした呟きまで忠実に書き起こした「シナリオ」を音読すると云うもの。

コンテストには、元学校の先生で結成されたチーム、シュールさに磨きをかけた激団トラベルボンバーズ、まるで新喜劇！お客様を巻き込んで会場を湧かせた大阪の弁護士さんチーム、報道特集にも登場し、小道具から官僚とのやりとりまで細部までこだわり抜いた関東チーム、そしてわたしの息子（小5）が自ら出場をきめたチー

審査結果を発表する金平茂紀さん㊧と優勝したチーム寄せ鍋

共謀罪の国会審議をオンドクする関東チーム

花鳥風月

なぜ、こんな不合理で非倫理的な「論理」が罷り通るのか。地震国日本での「原発再稼動論」、オーバーキル状態の核弾頭を保持し使えないと解っていながらの「核抑止力論」など▼『アメリカ　暴力の世紀』ジョン・W・ダワー著、田中利幸訳（岩波書店）に一つのヒントを得た気がした。第二次世界大戦以降のアメリカ合衆国の国防政策と関わった「戦争」が分析されている。印象に残った点を拾えば、大戦時に形成された巨大な産軍共同体の存在と国防予算の継続。冷戦期に核のエスカレーションを呼んだ「大規模報復」「相互確証破壊」などの頭文字をとった「MAD（狂気）理論」。冷戦終結後は軍事革新を背景にした「全面領域支配」へ傾倒。9・11事件後のパニック状態から、テロとのたたかいを「不安定の連鎖拡大反応」と位置づけ、「安全保障国家」の名による異常な情報収集活動。軍事の民間委託によって、テロの恐怖が民間企業の儲けにつながっている事実等々。オバマですら抜け出す道を作れなかった今日のアメリカの姿を「戦争文化国家」と結論づけている▼若い頃に金沢に住んでいたという親日家でもある著者に冷静な目を見た。日米軍事一体化の流れに日本を無理やり引きずり込もうとする現政権に対する警鐘と読んだ。（I）

ム寄せ鍋の五チームが参加し、各チームのメンバーは石川、大阪、京都、神奈川、埼玉、東京などから大集合した。

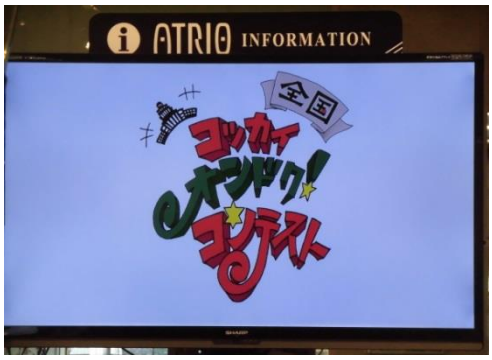
ジャーナリストの金平茂紀さんをはじめ、地元の弁護士さん、大学の先生や舞台プロデューサーさんを審査員に迎え、「わかりやすさ、表現度、次に国会を見たくなる度」で審査され、なんと優勝したのは我らが「チーム寄せ鍋」！　音読するからこそ伝わる言葉の力。そして子どもでも出来ることを証明できたことが評価に繋がった。

コッカイオンドクサイトにシナリオがアップされているので、パパっと集まってすぐに出来るところがコッカイオンドクの最大の魅力！

メンバーと一緒に国会中継録画を見て、自分が演じる役がどんな表情をし、どう言葉を絞り出しているのかをじっくり観察したり、そこで発せられた言葉を自分の中に落とし込んで、自らの肉体や声を通してみると、野党、与党、そして官僚、其々の立場に立てるから、今まで見えていなかったものが見えてくる。これは海外で盛んに行われている演劇教育に近いと思う。

子どもたちがいつか選挙権を手にして自分の思いを託す政治家さんを選ぶ時、投票の仕方をレクチャーするなら、子どもたち自らがコッカイオンドクを体感する方がよっぽど投票率が上がるのではないかな。ロールプレイングの面白さを最大に生かしたコッカイオンドク。この壮大なゴッコ遊びは「世紀の大発明」だ。

（金沢市・主婦）



香林坊アトリオステージで開催された
全国コッカイオンドク！コンテスト

非核の政府を求める石川の会
第30回総会　ご案内

日時　2018年5月26日（土）
13：00～14：00
会場　金沢歌劇座3階第3会議室
次第　2017年度活動報告及び決算報告
2018年度活動方針案及び予算案
役員改選
主催　非核の政府を求める石川の会

◇講演要旨◇

憲法の創造力
―今こそ憲法を語る―

首都大学東京　都市教養学部
法学系教授　木村草太

講師の木村草太さん

三月一〇日（土）石川県保険医協会第四四回総会記念・市民公開講演会が、石川県女性センターにて開催され、二五〇人の参加者があった。

初めに憲法とは何かの説明があった。近代国家には権力の一極集中が見られるが、国家権力の三大失敗として①戦争、②人権侵害、③独裁があげられる。これらを防ぐために①軍隊と戦争をコントロールする、②人権を保障する、③権力は分立して独裁は許さないという張り紙が世界の憲法にはみられ、日本国憲法では、第二章　戦争の放棄、第三章　国民の権利及び義務、第四章　国会、第五章　内閣、第六章　司法、第七章　財政、第八章　地方自治があり、張り紙として第九章　改正、第一〇章　最高法規がある。

自衛隊と憲法九条については、はじめに武力の行使（対国家）と武器の使用（対犯罪者）の違いの説明があり、国際法でも武力の不行使原則（国連憲章二条二項）はあるが、例外として集団安全保障（憲章四二条）、個別的自衛権（同五一条）、集団的自衛権（同五一条）がある。日本国憲法でも九条の政府見解として、「あらゆる武力行使の禁止」としているが、例外として個別的自衛権（自衛隊合憲説）があり、その根拠法は憲法第一三条である。したがって国内防衛は「行政」の範囲に含まれるが、他国防衛については例外を許容した条文は存在せず、集団的自衛権や国連軍参加は憲法違反ということになっている。

安保法制と九条改憲では、一項、二項を維持しつつ自衛隊を憲法に書き込む場合について、表を使っての説明があった。国内を四つのグループ（国防軍創設派、集団的自衛権限定容認派、個別的自衛権限定派、九条堅持派）に分け、それぞれについて、(a)国防軍創設、(b)集団的自衛権限定容認、(c)個別的自衛権限定明記の案を考えてみると、(a)では支持者が少なく、支持者が

拮抗した(b)では先の安保法制を国民投票にかけることとなり、成立可能な(c)では安保法制の違憲が明確化されてしまう。そこでおそらく①任務を明記せず、自衛隊を書くだけで発議し、②可決後に集団的自衛権も含め、自衛隊の現状が認められたと言うことになりかねないと、まるで講演から二週間後の自民党の改憲案を予言しているかのようだった。

ＰＴＡ改革について憲法の視点から言及し、二一条の結社の自由の保障を踏まえ、①完全な任意加入、②学校からの独立、③圧力・イジメの厳禁を提言していた。また、子どもの人権については、広島県教育委員会の教材を引き合いに出し、小学生の運動会での組体操を扱った道徳教材が、学校内の安全と子供の人権を無視した冗談のような内容となっており、人権を守るために、各々の立場に立って考えることの重要性を訴えていた。

新進気鋭の憲法学者ということで、随分堅い話かもしれないと思っていたが、ジョークも交えた講演に会場は楽しい雰囲気に包まれた。

（石川県保険医協会理事　濱田久）

映画「標的の島　風かたか」
内灘・津幡上映会　舞台挨拶

「標的の島　風かたか」によせる想い

映画監督　三上智恵

沖縄の祭りについて熱く語る三上監督

今度の映画「標的の島　風かたか」ではアメリカ軍や日本政府がどんなに沖縄をいじめてもこれを跳ね返していく力、「風かたか（防波堤）」になる、その秘密を描いています。一つはお母さんたちの力を取り上げました。もう一つは、映画のなかで出てくる四つの祭りです。私は民俗学を勉強してきたので、現在もあの米軍ヘリコプターが墜落した沖縄国際大学の非常勤講師として民俗学を教えています。

ひとつの集落で共通の祭り、世界観を持っていることが、どんなに強いことかお話します。

民俗学では神と森は共同体の世界観と関わると言われています。自然（森）があるとその有難さや脅威が神々しい神のイメージを作り出します。森がないと神を信ずることができなくなります。神と森と人間の共同体がうまく機能しないと伝統文化や目に見えない民俗的行事や哲学がなくなります。うまく機能しているのが沖縄であり、特に離島では顕著です。

映画では沖縄の離島の四つの祭り（エイサー、パーントゥ、アンガマ、豊年祭）を取り上げました。このような祭りが続いていることで地域の持つ力、人間の持つ力が維持されています。アメリカ軍と日本政府がどれだけ強引な手法でやってきても沖縄には対峙していく力、絶対に奪いさられない力が備わっています。土地や家屋、財産は人に取られたらなくなるが、集落には祭りなど共有の概念、大事なことは誰からも奪えない財産があります。その象徴としてお盆におじいさん、おばあさんが目に見える形で家に帰ってくるのが石垣島の民族行事「アンガマ」です。自衛隊の配備をめぐって石垣島では住民の間で賛否があり、争いがありましたが、アンガマはあの世はどんなところかトンチ問答で教えてくれます。自分の子や孫の世代に死後も関わっていくと思えば、自衛隊配備のために土地を売るとか、水源を汚してしまったら、先祖や子孫に申し訳が立たなくなる。そんな社会規範、世界観が残っています。沖縄の祭りにはそのような強さがあります。

翁長雄志知事は、「自分はいま沖縄県の代表として苦労しているが、沖縄戦や先祖たちの苦労に比べれば大したことはない。辺野古新基地建設を断念させることができれば、四〇年、五〇年後の子孫たちから感謝されることになる」と述べて、日米両政府に毅然と対峙しています。一方、今年一月の名護市長選挙で稲嶺進さんは三選できなかった。去年の宮古市長選や二週間前の石垣市長選でも辺野古新基地容認派の候補が当選しています。「オール沖縄」のピークが二〇一四年～二〇一五年でしたが、いまはこの枠組みで首長選挙に勝つことは難しくなっています。

ゲート前の抗議行動のリーダー山城博治さんは、一本二八〇〇円の鉄条網をペンチで切ったことやゲート前にブロックを積んで資材搬入を妨害したことなど四件の微罪で五カ月間も拘留され、裁判では懲役二年、執行猶予三年の判決が出ています。執行猶予の三年間、博治さんは抗議行動の現場に行けないようにされています。最近では一日二〇〇台～三〇〇台のト

ラックが米軍キャンプシュワブに入り、辺野古崎の元の形がわからなくなるまでに護岸工事が進んでいます。

皆さん、ぜひ辺野古の座り込みに来てください。辺野古新基地建設に反対し、抗議する人数がふえれば工事車両の通行を阻むことができ、一時間でも二時間でも護岸工事を遅らせることができますから。

〝軍隊は住民を守らない〟次回作は「沖縄裏戦史」

今、私は〝軍隊は住民を守らない〟ことを伝えるために、七二年前の沖縄戦の長編ドキュメンタリー映画「沖縄裏戦史（仮題）」を作っています。

沖縄戦では、軍の機密をアメリカ軍に渡さないためにスパイ虐殺としてたくさんの住民が殺されました。日本軍は住民を使って戦争をします。それは秘密戦という分野です。沖縄の守備隊の戦闘は「表の沖縄戦」であり、これとは別に「裏の沖縄戦」＝秘密戦がありました。いわゆるゲリラ、テロ、スパイ、そして情報戦です。情報戦には軍に都合のよい情報を流すことと誰が戦争に反対しているかを密告させる両方あります。

この映画では少年スパイ兵（護郷隊）に焦点を当てました。護郷隊は陸軍中野学校がつくった学校で、一〇〇〇人もいたのにこれまでほとんど語られていません。沖縄戦には一四歳から一七歳の少年スパイ兵が四二人配置されおり、私が取材したおじいさんの中には一人でアメリカ兵を一〇〇人も殺したと話した人もいました。

「沖縄裏戦史」では日本軍が住民を使って、少年兵まで使って何をしようとしていたかを沖縄での地上戦を通して訴えていきます。当時の大本営が作った戦争マニュアルには、①遊撃戦＝ゲリラ戦には住民を使う、②陣地構築や飛行場建設など労働させる、③食糧を供出させる、④敵が入って来ないか監視させる。住民監視、スパイ行為も含みます、⑤武器を持って戦わせると書かれています。大本営の国土決戦教令には、本土でも沖縄と同じことをさせると書かれています。陸軍中野学校は護郷隊を沖縄だけでなく、全国に作ろうとしていました。現在でも宮古・八重山に自衛隊が配備されると同時にこのような動き（秘密戦）が始まっています。すでに情報保全隊が入ってきており、地元の住民を使って自衛隊配備への賛否や宗教、親戚関係など調べています。次回作では、〝自衛隊は住民を守る組織ではない〟ことを描き出したいと思います。

（非核・いしかわ編集部）

◎三月二五日、内灘町役場町民ホールで開かれた映画「標的の島　風かたか」上映会での舞台挨拶です。

非核・平和のひろば

◇性教協石川セミナー記念講演◇
講師の河野美代子さんの御紹介にかえて

〝人間と性〟教育研究協議会
石川支部事務局長　末友雅子

広島サークルの産婦人科医、河野美代子さんは、性教育ではとても有名な方です。『さらば悲しみの性』という著書で知っているという方も多いかも知れません。〝人間と性〟教育研究協議会（以下、性教協）石川支部のセミナーでも二度、産婦人科の窓口から見える若者の性について話していただきました。

ですが、今回のお話は少し違います。二〇一六年七月の性教協全国セミナー山形大会の分科会で河野美代子さんの活動の原点に出合いました。そこでのお話から御紹介させていただきます。彼女のお父さんは「この子たち」の先生（広島二中）だったのでした。金沢で一五回上演され、私も関わった朗読劇「この子たちの夏」（原作「いしぶみ」）。爆心地付近へ建物疎開の作業に出ていた広島二中の一年生全滅の記録、最期の様子を母が語る…何の脚色も舞台道具もなく、ただ淡々と読む。その中に母子の思い、戦争中の状況、押さえられてきた感情が静かに深く伝わってくる舞台でした。河野さんのお父さんはその日その時間、たまたま学校の用事のため自転車で出かけ、爆心地から少し離れたところにいて助かりました。でも、教え子たちを助けられなかったことは、生涯続く辛い思いでした。

河野さんのお話の最初のスライドは、生き残った子どもたちが青空教室で勉強している写真。「これが教育の原点」と言われましたが、原爆投下後の高放射能のがれきの中…知らない

でさらされ続けたのだと思うと切なくなります。それでも生き抜いてきた被爆者、被爆二世の方々、一つ病気にかかれば「原爆のせいではないのか」と思い、周囲からは「ピカはうつる」「ピカにあった者は子どもに影響する」と言われ、また孤児として生きるなど、人生のあらゆる場面で差別と苦痛を感じて生きてこられたサバイバーです。河野さんは、被爆二世として、かつて核実験反対の座り込みをしていた仲間達と共に九年前から「八・六広島平和の夕べ」という取り組みをされています。漫画『はだしのゲン』の中沢啓治さん、ミサヨご夫妻とも深いつながりがあり、中沢さんの最期をご家族とともに送られたことも今回初めて知りました。

被爆二世を意識して活動されていたところでの3・11震災、そして福島の原発事故。福島の女性と子どもたちへ一時保養の呼びかけをし、その取り組みの中で福島の女性たちと河野さんが話し合います。河野さんが若い頃悩んだことが、今、福島の女性の不安になっています。「子どもを産めるのか」。

河野さんは自らの人生で「被爆者である親の話を聞こう」「私たちは子どもを産もう、（たとえ障害があっても）子どもとともに頑張ろう」と決断したことを語ります。夫の両親の反対を乗り越えたことを「やっぱり向こうが惚れとったんじゃろうよ」という河野さんは可愛くもたくましく、「自分の体を知り、自分の意志で産む産まないを決め、楽しく生き生きと生活しよう。私の本音は、頑張って産んで子どもと一緒に闘って欲しい」と河野さんは語ります。

日々の産婦人科クリニックでの診療から、現代の若者、大人の姿、自らの体験、多くの人々との繋がりの中からどうしても伝えたいこと、などが見えてきます。セミナーの講演では、時間の都合上どこまでお聞きできるか分かりませんが、「平和」「原爆と原発」「生と性」、それらが一本につながるお話がお聞きできると思います。どうぞ、お誘い合わせのうえ多数ご参加ください。

河野美代子さん講演会

次の世代を育てる大人としてどう生きるか―広島から福島まで

日　時　5月27日（日）13：30～

会　場　石川県社会福祉会館ホール

参加費　一般1500円、性教協石川会員1000円、学生など700円

主　催　〝人間と性〟教育研究協議会石川支部

市民メディアの発動で

9条改憲を阻止し、民主的な地域へ変革を

編集委員　永山孝一

9条改憲を阻止し、貧困も、格差も、生活不安もない社会を実現する力は、市民の連帯をおいてありません。

憲法改悪を狙う反動的な動きを打破するうえで、いま私たちの日常生活圏から市民のメディアを発動し、知恵と力を結集することが大切です。

金沢都市圏には、地域特性を異にする六つのブロックがあり、これをベースに考えると、例えば、次のような地区が想定できます。

西南部地区、西部地区、粟ヶ崎・内灘地区、南部地区、犀川・兼六地区、東部地区など

当面こうした地区で、地域住民による情報交流の場としてミニ・メディアを立ち上げ、地域課題と共に三〇〇〇万署名など、運動推進の拠点とすることが考えられます。

金沢では既に、小立野・犀川ロード9条の会のニュース、寺町台九条の会『9条・通心』及び、九条の会石川ネットのニュースレターなどが定期的に刊行され、活動しています。

これらの経験を基盤とした市民のメディアによって、より広範な連帯を築き上げることが大切です。

住民自治の前進を

9条の会や非核の会をはじめ様々な住民運動の連帯が、金沢都市圏のまちづくりの推進力となるためには、それぞれ固有性のある地域・地区において、住民が、現実的な諸課題に取り組むことを通じ、住民自治を発展させてゆくことが不可欠だと思います。

サポート会員制を発足しました

『非核・いしかわ』は『非核五項目』を掲げる、平和な日本と明日の地域への道しるべ――非核の政府を求める石川の会の機関紙です。『非核五項目』は会報の表題部に掲載されています。

このたび、いしかわ発の平和への便り『非核・いしかわ』が、より一層広く県民の皆様に届くことを願って、サポート会員制（本紙の年間購読料一五〇〇円）を発足しました。平和を願う皆さまに活用されますようお奨めします。

非核の政府を求める石川の会

非核石川の会リレーエッセー

◆追悼寄稿◆
知は力なり

西村　昭

多くの方々に被爆の実相を知って頂かなければ「知れば知るほど・・・」という言い回しがあるが、核兵器の恐ろしき人道上の問題を人々に知ってもらうことが一番大切である。その実体を知ることにより人々は「廃絶」の気持ちを胸にともし、核兵器廃絶の意志を育て核兵器廃絶への行動を起こすことになる。

よく言われる「知は力なり」ではないでしょうか。核の非人道性を知っている私たちは広島・長崎への原爆投下が何をもたらしたか。また今の核の実体を学び、「知」を得て「広める」活動に力を注ぐ必要があろう。

世間に核の実体を知らせるためにも私たち自身が、いま核兵器をめぐって世界はどうなっているのか、その実体と将来について正しい展望を持たなくてはならない！そのための研修の資料や場を私たち自身の力で持ちたいと思っています。

・・・・・・・・・・・・

「日本国は対外との戦争はしない」状態が七〇余年続いた歴史の重みは、対外との戦争も辞さず資本の論理を貫ぬこうとする勢力にとって大きな障害となっている。人によってはこの状況の一面を切り取り、「平和ボケ」とも言うがそれは七〇年余続いた平和への冒涜である。日本が戦争に参加しなかったのは、憲法九条とその九条を守り育ててきた国民の意識と行動にあずかることが大きい。

日本国民は憲法九条を守り、対外との戦争をさせない状況を作ってきた。その一方で、陸・海・空の自衛隊の戦力は「・・・戦力を保持しない」九条を空文化させ、大きな戦力を保持し、陸・海・空の安全を守ると誇示している。

日本国は今も戦争に反対し、平和の担い手として進む勢力と外国との紛争や自国の利益のためと称して戦争を辞さないとする勢力のせめぎ合いの中にいる。

◎創立当初から非核石川の会を支えていただいた西村昭さんは三月二八日、享年八一歳で逝去されました。

このエッセーは西村さんが体調の良い時に書き留められており、遺族の方から届けていただきました。

ご冥福をお祈りいたします。

核兵器廃絶　終わりの始まり

西本多美子

昨年は、私の被爆者運動五〇年余の総決算とも言える大きな大きな出来事があった年でした。長年の念願がかなって、県内被爆者の被爆証言ＤＶＤ『この空を見上げて』が完成し、県内の全ての小、中、高、大学、図書館、自治体に寄贈することができました。もともと被爆者数が極度に少ない県ですが、年とともにどんどん減っていき、このままでは広島、長崎の悲劇が風化してしまうとの危機感に駆られていました。

高齢と様々な疾病を抱え、差別と偏見に苦しんできた方達が、勇気を奮い起こしてカメラの前で語ってくださいました。ボランティアとして協力してくださったカメラマン、優秀なアナウンサーによる素晴らしい語りと編集。被爆者からの後世への贈り物となったのです。

昨年七月七日、国連で「核兵器禁止条約」が採択され、続いてＩＣＡＮ（核兵器廃絶国際キャンペーン）がノーベル平和賞を受賞しました。正直びっくりしました。ＩＣＡＮのフィン事務局長は核被害者たちが苦しみを乗り越えて語り続けてくれたお蔭だと、高く評価してくれました。

私はかなり早い時期から、日本被団協の求めに応じて海外遊説に参加してきました。国連本部四回をはじめとして一〇数回にのぼります。一回一回大変だったけれど少しは力になれた！嬉しかったですね。その中で特に心に残っていることは・・・。

一九九九年、オランダ・ハーグでの世界市民平和会議に参加。三日間の会議で出された「公正な世界秩序のための一〇原則」の第一に日本国憲法第九条に見習って各国は不戦決議をしようと出されたのには本当にびっくりしました。だって平和憲法は当たり前、空気か水のような存在だったのですから。核兵器廃絶は六番目でしたね。日本の若手の弁護士さん達は、みんな浴衣姿で日本国憲法の英語版を配っておられました。

二〇〇〇年、長崎の松谷英子さんが地裁、高裁、最高裁と一二年もの歳月をかけて原爆症の認定を勝ち取りました。これを受けて翌年、ギリシャの女性団体から松谷さんに会議への招請がありました。松谷さんは勝訴後、原爆で不自由になった足を手術して、まだギプスがとれない状態の中、参加

することに。車椅子の彼女をフォローする役目でアテネに行きました。

一五年ぐらい前には、コスタリカに行きました。元大統領宅に招待されて懇談した時、「うちの国では、軍隊を持とうと言う者は一人もいません。また大統領の任期は一期四年、続投することは出来ません。癒着が起きると困りますからね。」コスタリカには国連平和大学があって、世界三〇数か国からの学生が学んでいるとのこと。「原爆と人間展」パネルを贈呈しました。

ロシアのクラスノヤルスクで驚いたのは、地図に載ってない街があることでした。一万人もの住民がいるのですが、核処理施設があるため町名は番号なんだそうです。近くに大きな川があり、川の魚は放射能に汚染されているため、住民にその影響が出ているようです。町の出入り口は検問所になっていて、銃を持った検査官が厳しくチェックしていました。

『はだしのゲン』タイ語版完成で翻訳者グループの浅妻南海江さんのお供をした時は、バンコクでもっとも人が集まるブックフェアでサインセールをしました。読書好きの王女さんが来られて「売れてますか？」と声をかけられ、それが翌日の新聞の大きな写真入り記事になったのにはびっくりしましたね。

今年は被爆七三年目。四歳被爆の私は七七歳と高齢になり、海外遊説は無理になりました。

「世界のどこにもふたたび被爆者をつくるな。」そのために「核兵器の廃絶を！」は心からの叫びです。命ある限り訴え続けます。

詩人会議かなざわ「独標」より

秋の憂い

土井和子

色褪せた朝顔は
過ぎ行く夏を歌い
熟した果実は
秋の扉を開いている
夕暮れの空に浮かぶ鰯雲
赤く染められた空
華やかに秋は始まった

大学受験生を持つ娘と姪は
希望する受験校を決めるのに
少なからず左右するのが
親の所得だと身に泌みた
塾も予備校も高額
県外への仕送りもまた財布が痛い
奨学金という善意の助けもあるが
支給金は隠れてローンとなり
卒業後には多額な借金となり
厳しい世の中に船出してなお
利息が付いた奨学金は足かせとなる
学びたいと希望に溢れた子供たちを
送り出すために若い親たちは
どんな工夫をするのだろうか
家計簿を穴が開くほど見ていれば
膨らみも縮みもしない数字から
解決の方程式が見えるかもしれない

果実は弾け
甘い香りを漂よわせ
秋の天使は軽やかに
弧を描いているが秋憂い

《編集室より》

◎上映中の『ペンタゴン・ペーパーズ』を鑑賞した。機密文書の正式名称は『ベトナムにおける政策決定の歴史一九四五年から一九六八年』といい、米政府のベトナム戦争への関与の実態を記録した内部資料だ。この膨大なレポートによれば、歴代政権はベトナム戦争で勝目がないことを分かっていながら、国民を欺き、何百万人もの若者を戦地に送り込んでいたという。映画では〝情報漏洩により国家の安全保障が危険にさらされる〟という理由でスクープ報道について新聞社と政府が裁判で争う内容となっている。

これは何のことはない現代日本の状況と酷似している。秘密保護法、共謀罪などで網をかけ、改竄・隠蔽・虚偽の限りを尽くしてでも、究極的に憲法九条の死文化を企む。危惧や反戦の声を黙殺して強引にすすめるのは、およそ民主主義と程遠い。

映画は〝報道の自由〟〝権力ではなく民衆の奉仕者〟など重要なテーマをサッと示しているが、〝民主主義と自由のもたらす恵沢〟を米司法が守っていることも示している。

いま日米の政権がマスコミを敵視し、その活動を封じ込めようとしているが、かつて米政権と戦ったジャーナリストたちを描く映画を放つことは、大いなる意味があろう。民衆もまた我が事として、応えねばなるまい。（中）

平和事業に関する自治体アンケートを今年も実施します

二〇一八年度の平和事業、小中学校の平和教育、原爆パネル展、「ヒバクシャ国際署名」等につき、本紙とともに県内全自治体に調査用紙を送り、五月半ばまでに集約する見込みです。

シリーズ 石川の地域点描 ⑳

フォトグラファー　中西　優

夜桜を撮りに、金沢のひがし茶屋街周辺や金沢城・兼六園などを歩きました。平日なのに多くの人であふれ、特に観光客の姿も目立ちます。俗に言う「新幹線効果」なのでしょうか。

その一方で「観光地に人が集まるばかりで、商店街には人が来ない」という話も耳にします。観光と市民生活のあり方について考え直す時期に来ているのではありませんか。

桜が満開の主計町茶屋街＝金沢市

絵手紙コーナー

金沢医療生協絵手紙班　広瀬勝子

夜桜と浅野川・梅の橋＝金沢市

非核平和の掲示板

月	日	曜	時	内　容	場　所
4	28	土	14:00	学習講演会「辺野古はいま」 ヘリ基地反対協議会・安次富浩さん	金沢市西念・労済会館3階ホール
	30	月・休	10:00	のとじょネット 講演会　お医者さんが語る放射能に負けないための「日々の暮らしの処方箋」/児玉順一さん	七尾市小島町・ワークパル七尾
5	3	木・休	14:00	安倍改憲NO！ 市民アクションいしかわ　憲法施行71周年記念県民集会・記念講演「安倍改憲阻止のために」 浜矩子さん	金沢市下本多町・金沢歌劇座大ホール
	9	水	12:50	核兵器廃絶6・9署名行動	金沢市武蔵町・Mza前
	13	日	13:30	NPO法人「未来塾・大人の学び」市民講演会「リベラル再稼働のために～アメリカの属国を越えよう」白井聡さん	金沢市青草町・近江町交流プラザ4階集会室
	14(月)～17(木)			「国民平和大行進」と「非核平和の自治体づくりアンケート」要請	県内全自治体へ
	19	土	14:00	石川県平和委員会年次総会	金沢市青草町・近江町交流プラザ4階研修室
	26	土	13:00	非核の政府を求める石川の会総会　総会後こちらへ↓	金沢市下本多町・金沢歌劇座3階第3会議室
	26	土	14:00	いしかわ市民連合講演会「市民の力が政治を動かす」木下ちがやさん	金沢市下本多町・金沢歌劇座2階大集会室
	27	日	13:30	人間と性　教育研究協議会石川支部 石川セミナー記念講演／河野美代子さん	金沢市本多町・石川県社会福祉会館4階集会室
6	9	土	14:00	戦争をさせない石川の会講演会「なぜ、菅官房長官の会見に臨むのか」望月衣塑子さん	金沢市下本多町・金沢歌劇座2階大集会室
	10(日)～15(金)			原水爆禁止国民平和大行進・能登コース（詳しくは実行委発表を）	輪島市から内灘町へ
	16(土)～24(日)			同上　日本海コース　一歩でも二歩でもあなたの街を歩きましょう	津幡町倶利伽羅から福井県吉崎町へ
	16	土	13:00	映画「標的の島　風かたか」小松上映会	小松市・小松市民センター
	23	土	14:00	映画「標的の島　風かたか」能美上映会	能美市・根上総合文化会館タント小ホール
7	1	日	10:00	石川県母親大会全体会・記念講演　伊藤真さん	金沢市三社町・石川県女性センター・ホール
	22	日	13:00	反核・平和おりづる市民のつどい／卯辰山「平和の子ら像」建立20周年記念　映画「この世界の片隅に」上映会	金沢市三社町・石川県女性センター・ホール

＊ 祝日は休日とします　＊ 毎週金曜日18：30どいね原発アピール行動 金沢駅兼六園口　＊ 毎月15日石川県沖縄連帯デー

本紙「非核いしかわ」のサポート会員を募集中。年間購読料1，500円です。ご紹介をお願いします。